治療計画書

療法名　EPd（1～2サイクル）　療法　1サイクル 4 週

疾患名　再発又は難治性の多発性骨髄腫

注射/内服/放射線	Rp	商品名	用量(/回)/用量(/日)/照射量	投与ルート/用法	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
注射	1	生理食塩液	250 ml	点滴	キープ	●							●							●							●						
注射	2	生理食塩液	50 ml	点滴(側管)	キープ	●							●							●							●						
注射	3	デキサート 生理食塩液	6.6 mg 50 ml	点滴(側管) エムプリシティ投与 45分前まで	10分	●							●							●							●						
注射	4	生理食塩液	100 ml	点滴(側管)	45分	●							●							●							●						
注射	5	エムプリシティ 生理食塩液 注射用水	10 mg/kg ※ 250 ml 25mg/mlで溶解	点滴(側管)	フローシートに従う	●							●							●							●						
注射	6	生理食塩液	50 ml	点滴(側管)	ルートフラッシュ	●							●							●							●						
注射	7																																
注射	8																																
注射	9																																
注射	10																																
内服	1	レナデックス	※※ 28 mg	エムプリシティ投与3-24時間前		●							●							●							●						
内服	2	クロルフェニラミン	6 mg	エムプリシティ投与45-90分前		●							●							●							●						
内服	3	ファモチジン	20 mg	エムプリシティ投与45-90分前		●							●							●							●						
内服	4	カロナール	1000 mg	エムプリシティ投与45-90分前		●							●							●							●						
内服	5	ポマリスト	4 mg	1日1回就寝前		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●							
内服	6																																
放射線			Gy																														

特記事項

※希釈液量は次の通り。体重50kg未満：150ml、50-90kg:；250ml、90kg超：350ml　の生食または5%ブドウ糖注射液で希釈する。
※※ 75歳を超える患者には、レナデックスを8mgで投与してもよい。
・インフュージョンリアクションGrade1～2の出現時はエムプリシティの投与を中断し、回復した場合には0.5ml/分の速度で投与を再開できる。忍容性が確認されれば30分毎0.5ml/分ずつ投与速度を上げるが、インフュージョンリアクションが発現した流速を超えない。Grade 3以上のインフュージョンリアクションが出現した場合は、エムプリシティの投与を中止し原則再投与しない。
・エムプリシティは0.22μm以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。

減量規定

薬品名					
標準投与量					
1段階減量					
2段階減量					
3段階減量					